

事業の背景・目的

・フチトリゲンゴロウは、野外生息個体数が非常に少ないと推定されている。近年では確認された報告がないことから、絶滅の恐れのある種の保存法に関する法律で指定されている。アクアマリンいなわしろカワセミ水族館ではコロナ禍における緊急避難措置としての受け入れを行い、2020年度から生息域外保全のための教育普及のために、飼育を開始した。フチトリゲンゴロウの生息域外保全個体群を継続して維持することにより種の保存を図るとともに、野生復帰に必要な飼育繁殖技術の確立及び生態等の科学的知見の集積を行う。

事業の内容

事業 フチトリゲンゴロウの生息域外保全計画

・安定的な繁殖技術の確立への模索の為、野外からの餌供給のインパクトを減らし代用食での飼育並びに来館者への種の保存法指定生物の周知を行い、広く一般に知ってもらうよう努めた。

得られた成果

絶滅の危機にあるフチトリゲンゴロウの個体群を、系統維持することを行った。また、飼育条件下において代用食による繁殖を行い、予定していた個体数を得ることができた。そのデータを飼育実施園館と共有を行った。あわせて種の保存法指定種であることの情報を来館者に広め、域外保全の重要性についての教育普及のための展示を行い、広く一般に知ってもらう活動を行った。その一環として、2023年12月23日産経新聞茨城版ではフチトリゲンゴロウの記事を執筆、掲載、2024年3月3日の生物多様性の日に合わせてNHKのテレビで域外保全のフチトリゲンゴロウについても放送された。